

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 3 月 26 日

【評価実施概要】

事業所番号	3671300469
法人名	有限会社 なかがわ苑
事業所名	グループホームなかがわ苑
所在地	徳島県阿南市那賀川町大京原393-1 (電話) 0884-42-4878

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 21 年 3 月 18 日

【情報提供票より】(平成 21 年 1 月 28 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤:9人、非常勤:7人、常勤換算:1ユニット 5.68人 2ユニット 6.23人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	一部2階建ての	階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	19,980 円	その他の経費(月額)	光熱水費:217円、その他:実費	
敷金	有() 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	170 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	30 円
	または1日当たり 900 円			

(4) 利用者の概要 (平成 21 年 1 月 28 日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	0 名		
要介護3	7 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.6 歳	最低	70 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	村上内科外科医院、阿南中央病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は自然豊かな田園地帯にありながら、近くの神社や公園への散歩、買い物などの外出にも便利な環境にある。熊氏協議会という39戸で形成される地域自治会の一員として近隣の方たちとの交流や連携が密に行われ、地域密着型サービス事業所としての役割を果たしている。利用者が残された力を発揮しながら家庭的な生活を継続することを支援するという運営者、管理者の方針が職員にもよく浸透し、意見の統一が図られている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題である運営推進会議の開催頻度と会議録への確認印・サイン、研修計画の作成と報告書への確認印・サインは改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者や管理者、職員は評価の意義や目的をよく理解して全員で話し合い、自己評価を行うなどサービスの質の向上に向けた取り組みを行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、地域包括支援センター職員、民生委員、近隣住民、地区協議会役員などが参加している。会議では利用者の状況報告や苑内外の地域活動についての話し合い、意見交換などを行い、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。会議内容は全職員に回覧し、確認印・サインがある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	事業所は意見箱を設置しているほか、面会や運営推進会議等の際に家族が意見や要望を出しやすいよう働きかけている。家族から出された意見、要望は全職員で課題を検討するなどサービスの向上に活かしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所は地域自治会に加入し、地区協議会や神社の清掃活動に職員、利用者が参加するなど交流が図られている。散歩時には近隣住民と気軽に会話を楽しんだり、民謡やフラダンス、足芸などボランティアの来訪もあり地域との連携が密に図られている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所は利用者が住み慣れた地域で安心して暮らしていくことを支援するための独自の理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内の見やすい位置に理念を掲示して毎朝のミーティング時に唱和するなどし、日々の実践に活かされるよう共有・意識づけがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会(熊氏協議会)に加入し、職員が協議会に出席したり、月2回利用者と一緒に神社の清掃活動に参加している。散歩時には近所の人たちと気軽に挨拶を交わしたり、民謡やフラダンスのボランティアの来訪を受けたり、人形浄瑠璃鑑賞会に近隣住民を招待するなど積極的な地域交流が相互に図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者、職員は評価の意義や目的をよく理解して全員で話し合い、自己評価を行うなどサービスの質の向上に向けた取り組みを行っている。また外部評価結果を全職員が把握して課題の検討を行い、具体的な改善に繋げている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、地域包括支援センター職員、民生委員、近隣住民、地区協議会役員などが参加している。会議では利用者の状況報告や苑内外の地域活動についての話し合い、意見交換などを行い、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。会議内容は全職員に回覧し、確認印・サインがある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は市担当者に問い合わせや相談を積極的に行い、情報・意見交換するなど交流の機会をもち、サービスの質の向上に取り組んでいる。町が主催する介護保険サービスについての勉強会などにも参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回発行する「ほのぼのだより」や家族の来訪時に写真を見てもらったりなど、利用者の生活の様子を伝えている。緊急時には電話連絡するなど個別の報告も行っている。金銭出納簿を確認してもらった際の確認印・サインはない。	○	金銭出納簿には家族の確認印・サインをもらうよう取り組みたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所には意見箱を設置しているほか、面会や運営推進会議等の際に家族が意見や要望を出しやすいよう働きかけている。家族から出された意見、要望は全職員で課題を検討するなどサービスの向上に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に抑える努力をし、異動のある時は引継ぎを十分に行い、利用者が不安なく過ごせるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者や管理者は職員の資質向上に熱意を持ち、各自のレベルに合った研修への参加を積極的に勧めている。研修報告書を全職員に回覧し、確認印をもらって内容の共有に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者との交流や連携の必要をよく認識しており、他の事業所の運動会や芋掘りなどのイベントに利用者とともに参加したり、情報交換するなどしてサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始にあたり見学や体験入居を通して利用者の希望や不安、家族の求めていることを把握し、安心して事業所の生活に馴染んでもらえるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として敬い、料理や農作業、生活の知恵などを教えてもらったり、得意な趣味や特技を披露してもらい喜怒哀楽を共感するなど、共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常の会話や表情などから、利用者の希望や思いを把握するよう努めている。意思疎通の困難な方には家族や関係者から情報を得るなど、本人の視点にたって検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の思い、要望を介護計画に反映させている。職員はカンファレンスやミーティングで意見交換し、利用者の生活習慣や望む暮らしを重視した計画を作成している。計画書には利用者・家族の確認印・サインがある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じて定期的に見直している。また利用者の状態や家族の希望に応じてそのつど見直し、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や外出の付き添いなど、利用者や家族の状況、要望に応じて柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望により、協力医療機関や入居前からのかかりつけ医に受診できるよう支援している。協力医による週1回の訪問診療と看護師による週2回の健康管理がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の対応については、入居時に利用者や家族、医師、介護関係者が話し合っって文書化し、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者のプライバシーを尊重し、支援時には言葉遣いに注意し、穏やかで優しい対応を行っている。個人情報は利用目的を定めて明文化し、厳重に取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりのペースや望んでいることを大切に、散歩や入浴など強制することなく、本人の体調や気持ちを優先して柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と同じテーブルにつき、和やかな雰囲気の中で食事ができるよう配慮している。調理の下ごしらえや配膳、下膳、食器洗いなどは利用者と職員がともに楽しみながら行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の要望に応じて、毎日いつでも入浴できるよう支援している。入浴を嫌がる利用者には、言葉かけや対応を工夫するなど、無理なく楽しめるよう取り組んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者一人ひとりの得意なことや関心事、楽しみ事を把握し、草むしりや掃除、洗濯物かたづけ、書道、手芸など気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調に配慮しながら、天気の良い日には近くの熊氏神社まで散歩に行ったり、買い物やドライブなど日常的に外出を支援している。また大麻比古神社への初詣やビッグひな祭り、花見など季節毎に外出の機会をつくり、利用者を楽しんでもらえるよう努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所の前は生活道路が通っているが、職員は利用者の動きをさりげなく見守りながら安全に配慮している。日中、玄関は開放されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、利用者と共に消火器の取り扱いや避難訓練をビデオ鑑賞も含めて年3回行っている。また今年度は地区防災会も結成し、近隣との協力体制も進んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力病院の栄養士が立てた献立表を参考にして、季節や利用者の希望等に応じて、更に工夫を加えている。毎食汁物をつけ、水分摂取の確保に配慮している。水分摂取量はそのつど記録し、全職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りや共用空間には季節の草花や鉢植えを配置し、畳の間にはひな壇を飾るなど家庭的で落ち着いた雰囲気となっている。また台所と食堂、居間が一体となっており、食卓の前で腰掛けたりソファで横たわったりするなど、利用者一人ひとりが居心地よく過ごせる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた椅子や整理たんす、テレビなどを持ち込み、カレンダーや自作の俳句、習字を壁に貼るなど、利用者が居心地よく安心して生活できるよう工夫されている。		